

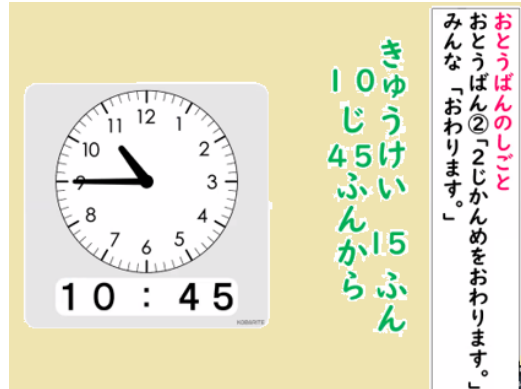


ニュージャージー 補習授業校通信

土曜日は日本の教育を

おとうばんのしゅう

九月十九日(土)一年三組の授業を見ると、



おとうばんのしゅう
おとうばん②「2じかんめをおわります。」
みんな「おわります。」

大きく赤い字で「おとうばんのしゅう」と書かれていました。「2じかんめをおわります。」とおとうばんさんが言っている、その

後みんなで「おわります。」初等部一年生からは始めるこの習慣は中等部でも行われていました。授業は先生と自分、そして一緒に勉強する友達がいるからできる。そんな気持ちにさせる習慣です。

また、声に出して言うことで、授業と休憩の気持ちの切り替えがうまくできるようになります。

授業の評価は誰のため

同日の午後、評価に関する研修会を行いました。オンライン授業でどのように評価をしている評価とは何か。テスト以外にも評価方法はあるのかなど一時間を予定していましたが、多数の質問があり、約一時間半の研修会とな



りました。

上のイラストは研修会の時の一枚です。

漢字の書き取りや、算数の計算などテストは子供達の学習状況を評価するためにやっていると考えている教員や保護者は多いのですが、それはテストの一面です。確かに子供達の学習改善につながるように、テスト結果に○をつけるだけでなく、アドバイスを書き込むことは大変有効です。すでに本校の多くの教員がテストの添削に取り組んでいます。

しかし、テストの結果にはもう一つの面「先生の指導改善」という意味があります。子供達のテストの結果を見て、自分の教え方を振り返り、改善を図ります。そうすることで、二回目のテストでは子供達の習得率が上がるだけでなく、教員の指導技術も向上していきます。三回目のテストではさらに二回目以上の向上が期待できます。

つまり、テストで評価することは、その時一度で終わるわけではありません。一回一回のテストを大切に、継続的に評価をしていくことで、子供達とともに教員も成長していくことが、評価には望まれています。

それでは保護者はどうテストや宿題に協力すればよいのでしょうか。

来週号で、一緒に考えていきたいと思えます。

第十五号

令和二年

九月二十五日

発行